

2018年度 大学自己点検・評価(経済学部)自己点検・評価総括用シート 1

＜経済学部の教育研究目標の進捗状況＞

教育研究目標(タイトル)		評価指標	評価尺度	進捗状況	
目標1	学部での専門的な学びを実践し、卒業後に社会で活躍していくために必要な基礎学力を修得できる教育を提供する。	TOEIC (TOEIC-IPを含む)で600点以上のスコアを記録する学生の割合	A: 11%以上 B: 10%以上～11%未満 C: 9%以上～10%未満 D: 9%未満	2018年度目標値	C
				2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	B
目標2	基礎学力に基づいて論理的に思考し、その内容を他者に伝える能力を備えてグローバルに活躍できる人材を育成する。	卒業要件となる科目群とは別に、「Writing across Curriculum 科目グループ」なるものを設定し、それに参加する科目を徐々に増やすことを目指す。それに参加する科目は、授業回数とほぼ同じ頻度で文章作成を行う科目(文章作成は、授業内・授業外を問わない)とする。	A: 80 (ほとんどの演習科目といくつかの講義科目) B: 40 C: 20 (多くの基礎演習) D: 0	2018年度目標値	B
				2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	B
目標3	すべての学生が活躍できる学部を目指す。	退学者数、留年者数、学習ポートフォリオ利用率 学生生活満足度	A: 退学者27名、留年者134名、ポートフォリオ利用率90%、学生満足度90% B: 退学者30名、留年者139名、ポートフォリオ利用率60%、学生満足度88.5% C: 退学者33名、留年者144名、ポートフォリオ利用率15%、学生満足度87% D: 退学者36名、留年者149名、ポートフォリオ利用率15%未満、学生満足度85.4%	2018年度目標値	C
				2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点)	C

教育研究目標(タイトル)		評価指標	評価尺度	進捗状況
目標4	対外的な研究成果の発信に努め、教育へのフィードバックを含め、研究成果を社会に還元し寄与していく学部を目指す。	発信できる研究成果としてのディスカッションペーパー発行数と経済学セミナーの開催回数	A: 行動計画①②どちらもA B: 行動計画①②どちらもB C: 行動計画①②どちらもC D: それ以外	2018年度目標値 B <hr/> 2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) B
	①ディスカッションペーパー発行数の増加	ディスカッションペーパー発行数	A: 20本以上 B: 15本以上 19本以下 C: 10本以上 14本以下 D: 10本未満	
	②セミナー開催の頻度	セミナー開催回数(学内教員による発表を含む)	A: 毎月2回開催 B: 毎月1回開催 C: 隔月開催 D: 各学期1~2回	
目標5	データに基づき、各種の高大接続方法を検討・改善する。	学年別に、入試形態別平均GPAの学部平均GPAからの差を指標とする。	A: 4学年とも安定的に-0.45以上 B: 2学年が安定的に-0.45以上 C: A・B以外	2018年度目標値 C <hr/> 2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) C

<2016～2018年度の自己点検・評価の取組み総括>

総括1 <3年間の取組みによって改善したこと、向上したこと>

教育研究目標1において、習熟度別英語クラスの編成やメディアルクラスの設置が早期に実現できたことは大きな成果と言える。大学の国際化の流れを踏まえ、使用言語を英語とする科目を増加させる計画も引き続き検討していく必要がある。教育研究目標2において、Writing across Curriculum の設置に意欲的に取り組んだ。時代のニーズに即し経済学部生にどのような能力を身につけてもらうのか、という点を学部の FD 活動を通じ検証し、改善を重ねて実践を継続させる取組みの必要性を再認識できた。

教育研究目標4において、経済学セミナーの開催件数が増加傾向にあり、研究成果の社会への還元が着実に実現できている。

教育研究目標5において、入試形態別の GPA を比較・検証し、入試制度の変更を実行できた。学力水準を確保しつつ、多様な人材を確保する上で有力な取組みであるといえる。

評価専門委員・所見記入欄:

■総括1について

- ・ Writing across Curriculum は非常に重要な取組みだと高く評価できます。今後もなお一層の充実を期待します。(A)
- ・ 種々の取組みが進捗している様子がうかがえます。(B)
- ・ いずれの教育研究目標についても、設定した目標値を達成し、成果が出てきていることがうかがえます。今後引き続き最終目標の達成に向け、学部内での PDCA サイクルの運用をしていくことが期待されます。(C)
- ・ 項目の中には目標値を超えて達成しているものがあります。今後も目標値を超えて達成する項目が増加するよう取組みの充実を期待します。(D)
- ・ 引き続き PDCA サイクルを機能させることで、更なる伸展が期待できます。(E)
- ・ 各目標について、着実に取組みを進めていることが伺えます。(F)
- ・ 教育目標1～5に沿って、しっかりとした自己評価がなされていると思います。特に教育目標1に掲げた指標の TOEIC-IP スコアで600点以上のスコアを記録する学生の割合が、B 評価へと上方修正されていることは好評価であり、総括2とも関連する留学制度にもよい影響を及ぼすことが期待されます。(G)